

文章

木曾街道の山の中に、木かげ村というところ

があつて、そこに木好きの木之助という子がいました。

この子は、木のまたからでも生まれたとみえて、大

の木の好きでしたから、年がら年じゆうひまさえあ

れば、木のぼりしたり、きこりをしたり、木っ葉をか

いたり、木の皮をむいたりして、これをいちばんの楽

しみにしていました。そのうちに学校へ行くように

なりますと、いろいろな本を習ううちに、植物学とい

うものがあつて、なんでも木や草のことを、くわしく

教わりますので、さあおもしろくてたまりません。な

んでもじぶんは一生のうちに、世界の植物学者になつ

て、世界じゆうの人をおどろかしてやろうと、こんな

望みをおこしました。

そこで木之助は、学校の先生に教わったとおり、

※ブリキの ※どうらん をかたからかけて、毎日

のように山や野へ出かけ、きれいな草をぬいたり、め

ずらしい芽ばえをさがしたりして、それをいちいち、

じぶんの家の庭へ持ってきてていねいに植えて、ひと

りでうれしそうにしております。

さてまた、この村のおくに、きのこ山という山がありました。ここはその名のおり、毎年秋になりますと、きのこがたくさんはえまして、きのこがりにはまことにいいのですが、そのくせだれもこの山へは、きのこをとりにゆく者がありません。

それはこのきのこ山に、恐ろしい魔物が住んでいて、昔からその山へのぼった者は、ひとりも生きて帰った者がいないと、こういういつたえがあつたからです。

※ゼンたい 魔物とはなんでしょう。

ある人は大きな ※うわばみ だといいます。…ある人は恐ろしいてんぐだといいます。…さるの ※劫をへた のだという者もあれば、…目の三つある山男 だという者もあり、…いや、おおかみがたくさん住んでいて、それに人間が食われるのだといえは、なに、大わしにさらわれるのだともいい、※てんでに いうことがちがうばかりで、まだだれも正体を見た者がありません。

木之助もこのことは、しじゅう聞いていましたが、もとより学校へ行っていろいろの子ですから、そん

問題一 () 街道の ()

() 村に、 () という子がいた。木

之助は大の () 好きで、 ()

さえあれば木のぼりなどをしていた。学校では ()

() 学を教わり、自分は一生のうちに世界の

() になると思っていた。

そこで木之助は () をかたから

かけて、 () のように山や野へ出かけ、

() 草を ()

などして、それをじぶんの家の () に植

えて () そうにしていた。

この村のおくは、 () という山

があった。ここは毎年 () になると

() がたくさんはえるのだが、だれ

も () をとりにゆく者がない。それ

は () に恐ろしい ()

() が住んでいて、ひとりも () 帰っ

たものがないという () があっ

たからだ。